

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成28年4月25日

1. 渡航者			
氏名	児島 憲二	採択年度	平成27年度
部局	農学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	Studies on Ribonucleases H from Biochemical and Biological Perspectives		
海外渡航期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：United States of America 大学等研究機関名：National Institutes of Health 研究室名等：Section on Formation of RNA, NICHD 受入研究者名：Dr. Robert J. Crouch		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	該当なし		

3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

<p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>渡航期間中に、当初計画していた通りの研究の成果を得ることができなかった。そのため、現在のところ国際共著論文の執筆には至っていない。 しかし、受入れ研究者の Dr. Crouch より、渡航期間中に行っていた研究をこちらで続けることを快諾していただいている。今後、引き続き彼とのディスカッションと研究を継続し、共著論文の発表をめざす。</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>現在のところ共同研究による研究費の獲得には至っていない。 受入れ研究者の Dr. Crouch との共同研究を継続し、その研究成果を基にして科研費や財団の助成金等の研究資金獲得をめざす。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>これまで、渡航者が所属する研究室と Dr. Crouch の研究室の間にはほとんど交流がなかった。今回の渡航で、Dr. Crouch の研究室との良好な関係を形成することができ、共同研究開始のきっかけになったものとする。 また、彼の研究室のミーティングに参加していた、NIH に所属する他の PI の方々とも知り合いになることができたので、必要に応じて共同研究のアプローチをしていく。</p>

<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>Dr. Crouch の居室のドアは、実験結果が出たらいつでも報告できるように常に開けられておりオープンな感じを受けた。彼は、研究成果を催促することなく、ディスカッションすることを目的に時々コーヒーを飲みに誘うなど、プレッシャーを感じさせずに上手に研究者の成果を引き出していた。研究室の運営は、ベテランのスタッフサイエンティストと二人三脚で行っていた。</p> <p>70歳近くになる Dr. Crouch 自身もマウスの解剖を行うなどしてとても元気で、常に研究に対する好奇心が絶えないことに感銘を受けた。また、彼は常に最新の研究技術を取り込み、NIH内に限らずアメリカ国内外の大学・研究機関の研究者とも幅広く共同研究をするなどして情報を収集していた。</p> <p>NIH では、毎日キャンパス内のどこかのビルディングで、アメリカ国内外の優れた研究者による招待講演があり、NIHに在籍する研究者は様々な研究領域に関する最新の知識を習得できる環境にある。渡航者自身も積極的に聴講し、一流の研究者によるプレゼンテーションを学んだ。また、Dr. Crouch の知り合いの NIH の PI が主催するアジア人向けの英会話教室に参加して、英語の上達もはかった。</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>該当なし</p>